

令和3年度保健、医療、福祉と連携した聴覚障害の ある乳幼児に対する教育相談事業実施報告

静岡県教育委員会特別支援教育課

静岡県の主な支援機関(R3)

聴覚特別支援学校
精密聴力検査施設

< 中部地区 >

静岡聴覚特別支援学校
静岡県立総合病院病院

静岡県乳幼児聴覚支援センター

< 東部地区 >

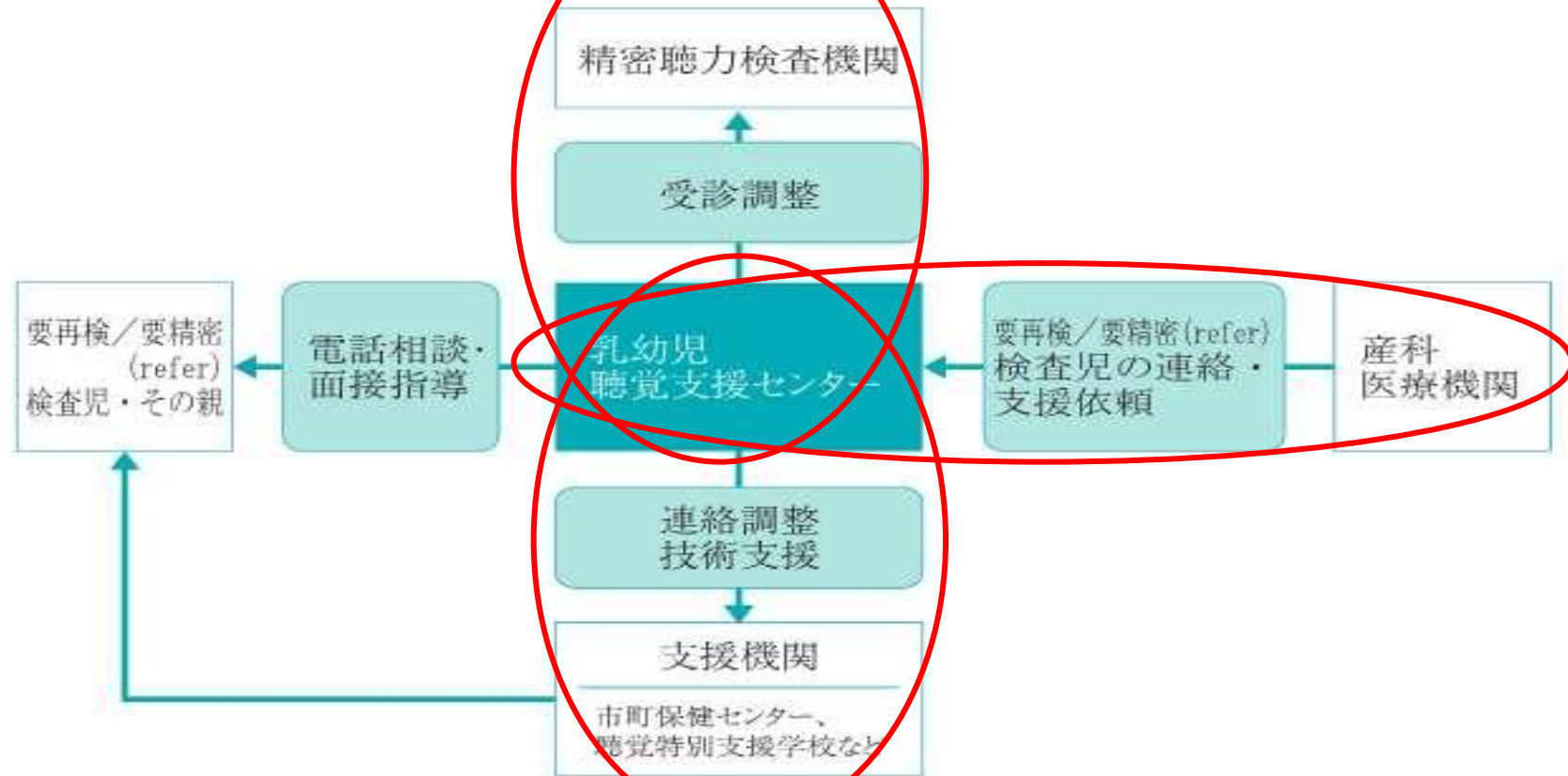
沼津聴覚特別支援学校
沼津市立病院

< 西部地区 >

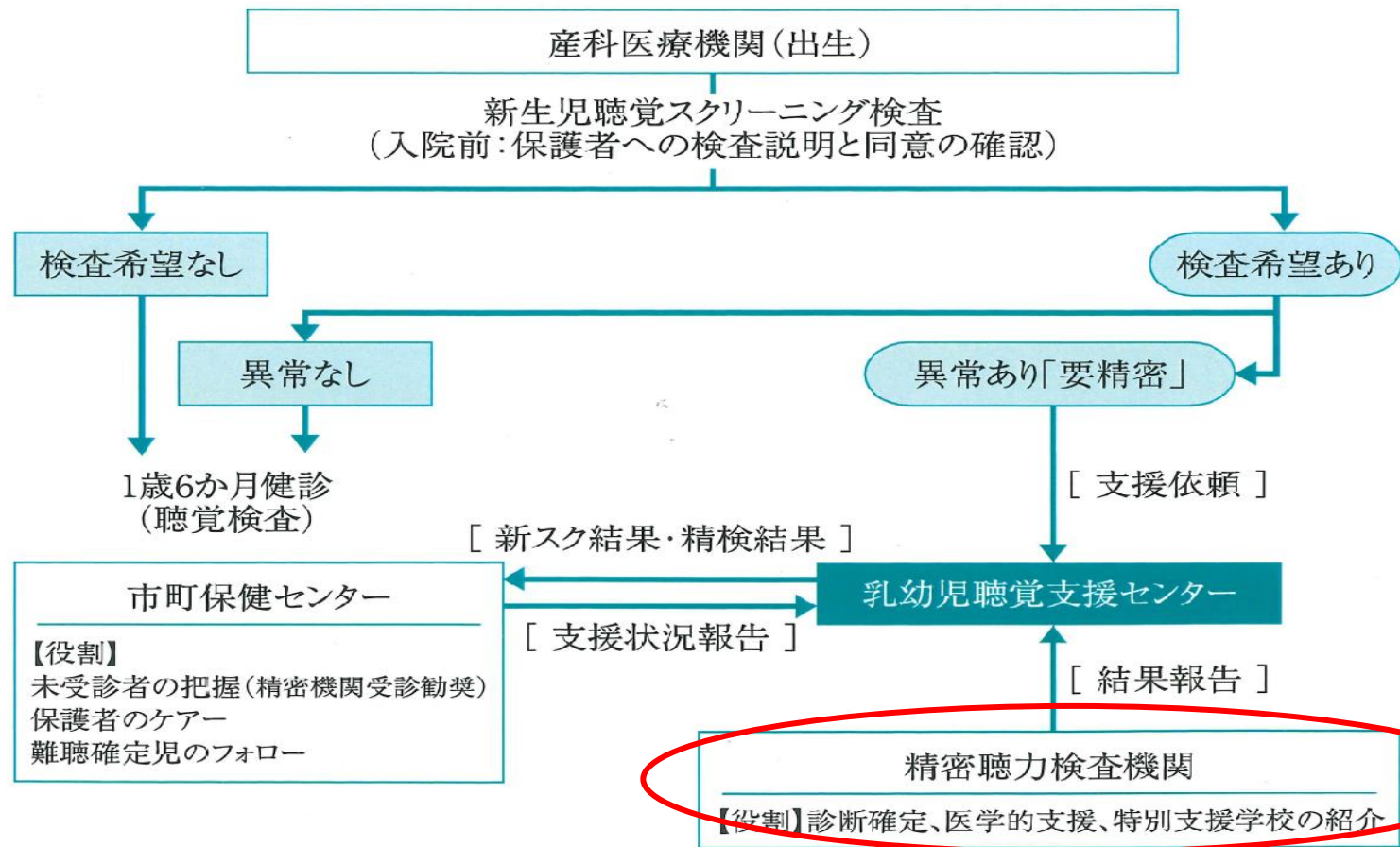
浜松聴覚特別支援学校
聖隷浜松病院

浜松医科大学医学部付属病院

静岡県乳幼児聴覚支援センター



新生児聴覚スクリーニング検査と支援のフォロー



新生児聴覚スクリーニング検査後の支援体制

母子保健行政支援

- 県保健師
- 市町保健師

- 新生児訪問
- 保護者ケア
- 検査の紹介
- 乳児健診および3歳児聴覚健診フォロー

福祉行政支援

- 手話通訳者
- ピアカウンセラー

- 相談・情報提供
- ピアカウンセリングによる保護者の心のケア
- 親子のコミュニケーション支援（手話教室）

出生（分娩産科機関）

未受検

pass

refer(要精検査)

乳幼児聴覚支援センター(保護者相談・精査受診連携)

精密聴力検査機関

聴覚障害・なし

聴覚障害・あり

聴覚特別支援学校

早期療育・教育支援

教育相談・乳幼児教室 ■ 教員

- 聴覚活用指導および補聴器調整
- 発達に応じた母子コミュニケーション指導

医療機関支援

- 医師
 - ・産科
 - ・小児科
 - ・耳鼻科
- 助産師
- 言語聴覚士

- リファーマ説明
- 保護者ケア
- 補聴器および人工内耳説明
- 調整指導

- 継続的診察
- 聴力検査
- 身体障害者手帳・補聴器補助購入助成における医学的診断

静岡県立聴覚特別支援学校

< 乳幼児教育相談の担当教員数、受入人数（直近 3 年間） >

沼津聴覚特別支援学校

年度	R元年	R 2 年	R 3 年
担当教員数	2	2	1
受入人数	54	49	56

静岡聴覚特別支援学校

年度	R元年	R 2 年	R 3 年
担当教員数	2	2	2
受入人数	20	19	16

浜松聴覚特別支援学校

年度	R元年	R 2 年	R 3 年
担当教員数	3	3	4
受入人数	37	37	29

静岡聴覚特別支援学校

<所在地> 静岡市駿河区中村町251番地

<幼児児童生徒数> 幼12人、小14人、中3人

<概要> 乳幼児教室から幼稚部、小学部、中学部まで、一貫した教育を行っています。個々の発達に応じたコミュニケーション手段を有効に活用し、日本語の基礎力、豊かな言語力を育てています。



県中部地区をモデルに乳幼児教育相談マネージャーを配置



難聴児の早期支援充実のための連携体制構築

I 目 的

聴覚障害のある乳幼児の教育相談において、乳幼児期から就学までの切れ目ない、より効果的な支援体制の構築を目指す。

- (1) 医療、保健、福祉、教育の関係機関の効果的な連携、支援体制を構築する。
- (2) 医療等との連携を強化することにより、聴覚特別支援学校乳幼児教室の療育、支援機能を向上させる。
- (3) 聴覚特別支援学校コーディネーター（乳幼児教室担当者、教育相談相談担当者等）の専門性の向上を図る。

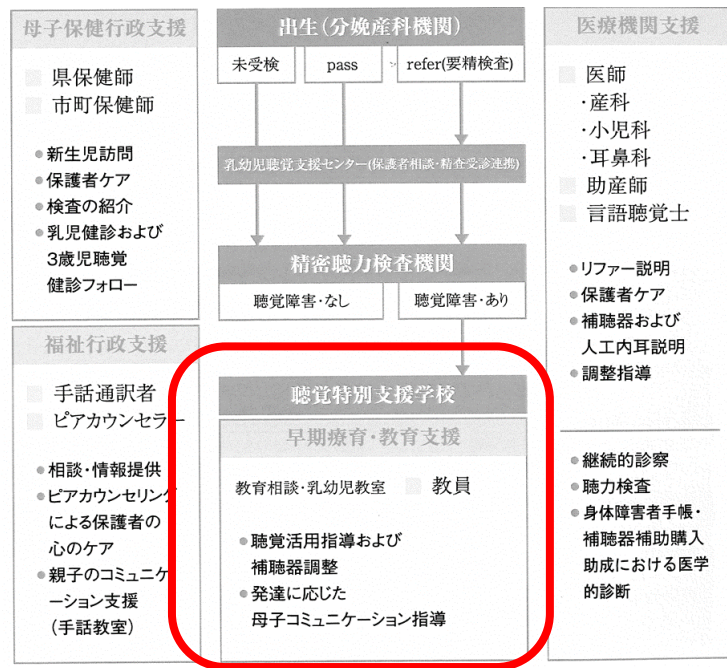
Ⅱ 事業体制

- (1) 中部地区をモデル地区とし、静岡聴覚特別支援学校に乳幼児教育相談マネージャーを配置する。
(聴覚障害児教育の経験豊富な元教諭を採用)
- (2) 「聴覚障害児支援中核機能モデル事業（厚生労働省）」
(県健康福祉部、県立総合病院委託) と連携して事業を進める。
- (3) 静岡県乳幼児聴覚支援センター（きこえとことばのセンター）との連携を図る。
- (4) 中部地区での取組を東部地区、西部地区の事業に般化する。

Ⅲ 主な事業内容と成果

- 1) 校内乳幼児教育運営のサポート
- 2) 校内地域支援部との連携
- 3) 乳幼児教育相談事業の研修
- 4) 医療との連携事業
- 5) 乳幼児聴覚支援センター等との連携
- 6) 県教委との連携
- 7) 市町福祉関係者との連携
- 8) 来年度に向けた体制作りの提案

1) 校内乳幼児教育運営のサポート



1) 校内乳幼児教育運営のサポート

☆乳幼児の療育基盤は個々の発達に則した療育（母子あそび中心）と家庭支援にあることを確認。

① 各家庭の実態把握

（家庭調査票、家の見取り図、生活日課表、生活範囲図等）

② 乳幼児個別の指導計画を個々の発達に合わせた、学期毎の見直し・修正

③ 授業づくりと振り返り

（参画家庭から何を持ち込み、何を家庭に返すのか。）

④ 授業実践と保護者との懇談（授業の意図と子どもの表れ、保護者の関わりのよさを引き出す。）

1) 校内乳幼児教育運営のサポート

- ⑤ スマホ絵日記や絵日記と家庭記録の活用（家庭での様子や課題の整理）
- ⑥ 保護者支援講座 月1回（乳幼児の発達、母子あそびの発達、聴覚の活用、話しかけ方、インリアル、絵日記の必要性と心得、VTRを利用した母子コミュニケーション等）
- ⑦ 個々の評価（津守式発達問診票、田中美郷聴覚発達チェックリスト等） 年2回
- ⑧ 文献の検討と担当者との定期的な研修

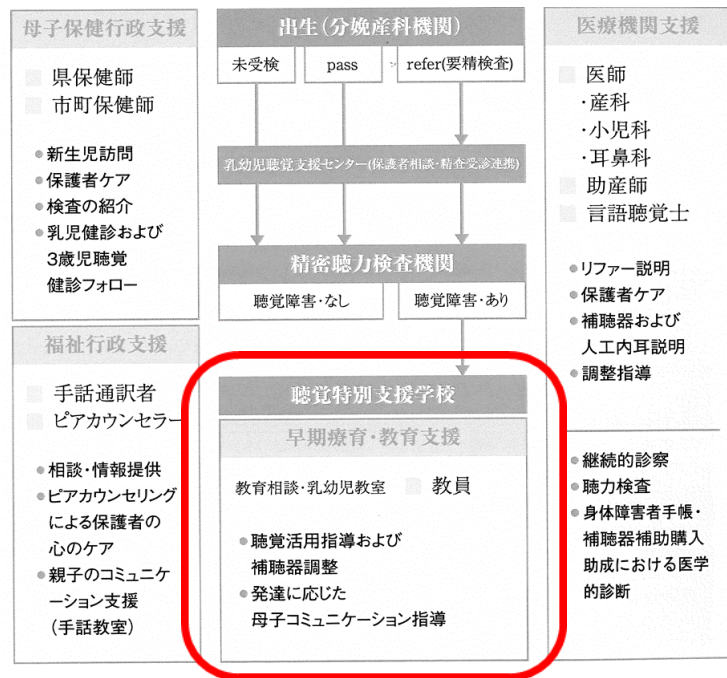
1) 校内乳幼児教育運営のサポート

「ろう教育の経験の少ない担当者に、子どもの支援や保護者への対応の仕方など、丁寧なサポートを実施」

＜成果＞

- ◎教員：今までの評価は、校内での子どものあらわれであったが、家庭もフィールドと考えると、生活全般を視野に入れた指導を心がけることで、課題が整理できてきた。
- ◎保護者：母子あそびを通して、子どもとのコミュニケーションがスムーズになり、かかわりを楽しめるようになってきた。
- ◎家庭とのZoom学習やスマホ絵日記を通して、家庭のよさを取り入れた学習の機会を増やすことができた。

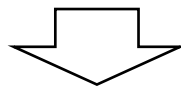
2) 校内地域支援部との連携



2) 校内地域支援部との連携

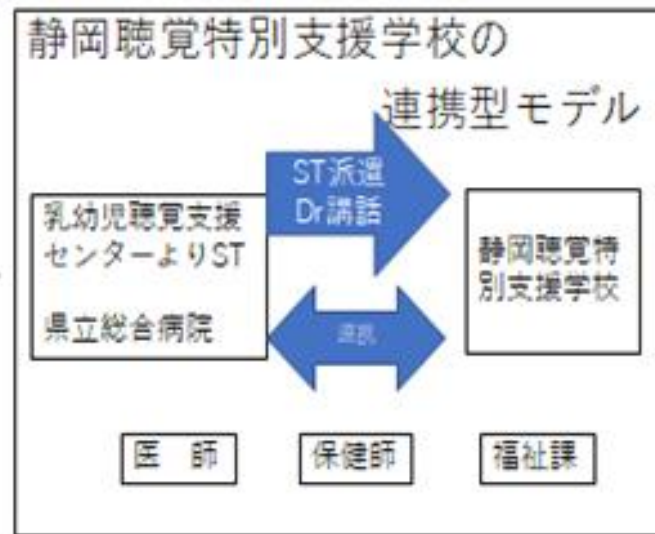
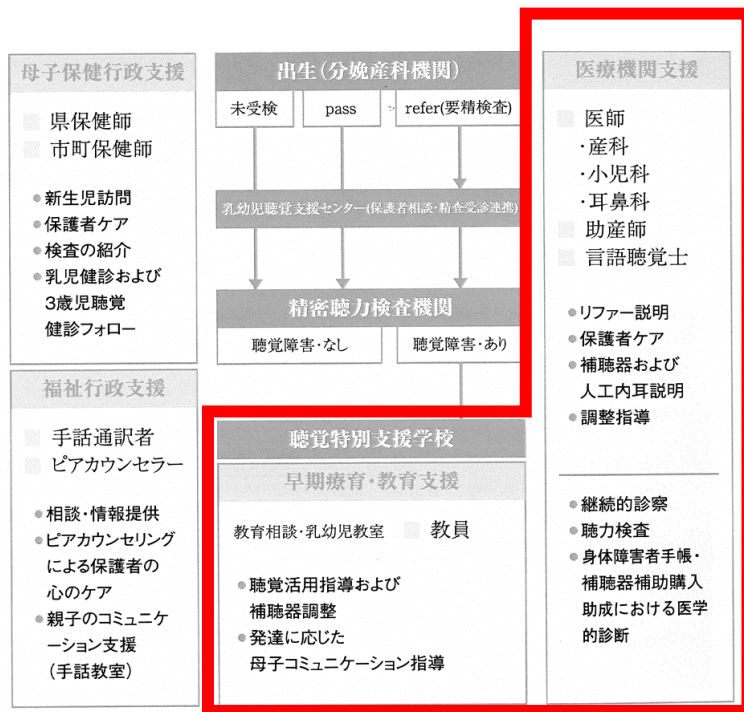
- ・ 5名の教諭で外来教育相談、乳幼児指導、通級指導を実施
- ・ 担当領域の広さ、担当者の専門性の向上が課題

⇒マネージャーを校内地域支援部に位置付け、
地域支援部職員を支援



小・中学校等地域支援の充実・強化

4) 医療との連携事業



4) 医療との連携事業

① 県立総合病院言語聴覚士を校内に招聘

- 学校現場での共同療育と協議（5回）
- 言語聴覚士による学習会（2回）
 - 「新版K式実技講習会」
 - 「人工内耳の適応とマッピング講義」
- 言語聴覚士による母親講座
 - 「夏場の人工内耳・補聴器の取り扱い方」

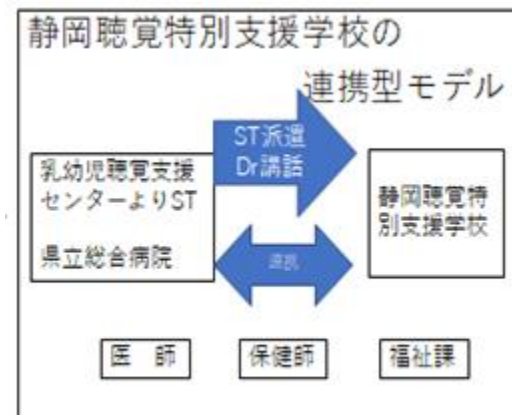
4) 医療との連携事業

② 担当教員を県立総合病院へ派遣（14回）

- ・ 担当の受診時に同行

言語聴覚士による検査等見学

言語聴覚士との情報交換 等



令和3年度医療との連携

No	期 日	実施事業名	実施場所	実施内容	人数
1	6月29日	言語聴覚士派遣 1	静岡聴覚	2歳児の個別指導2ケース、協議	5人
2	7月 9日	学校職員の派遣 1	県総病院	県総ハビリテーション見学ガイダンス	4人
3	7月15日	言語聴覚士派遣 2	静岡聴覚	2歳児のグループ指導、協議	4人
4	10月1日	言語聴覚士派遣 3	静岡聴覚	「新版K式演習」Web講義	6人
5	10月15日	学校職員の派遣 2	県総病院	2歳児（S児）人工内耳調整、相談	1人
6	10月25日	言語聴覚士派遣 4	静岡聴覚	「人工内耳の適応とマッピング」のWeb講義	7人
7	11月15日	学校職員の派遣 3	県総病院	1歳児（M児）のCI音入れ立ち合い	1人
8	12月 8日	学校職員の派遣 4	県総病院	1歳児（M児）のCI音入れ立ち合い	1人
9	12月13日	言語聴覚士派遣 5	静岡聴覚	2歳児の個別指導、協議	4人
10	1月21日	言語聴覚士派遣 6	静岡聴覚	1歳児の個別指導、協議	4人
11	3月 9日	言語聴覚士派遣 7	静岡聴覚	2歳児のグループ指導、協議	4人
12	コロナ蔓延のため中止	学校職員の派遣 5	県総病院	2歳児（M児）聴力検査、相談等	1人
13		学校職員の派遣 6	県総病院	1歳児（R児）聴力検査、相談等	1人
14		学校職員の派遣 7	県総病院	0歳児（R児）聴力検査、相談等	1人

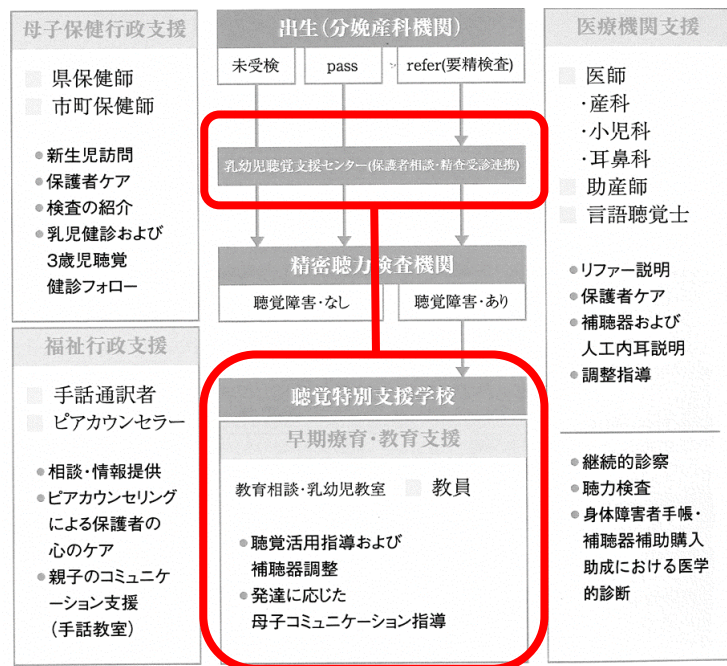
4) 医療との連携事業

＜連携の成果＞

- 専門的立場からの助言を現場の指導に生かすことができた。
- 学校、医療現場、それぞれの場所での子どもの様子を共有することができた。

生活音の飛び交う学校環境
普段とは違う子どものあらわれ
検査の専門性 等を共有

5) 乳幼児聴覚支援センター等との連携



5) 乳幼児聴覚支援センター等との連携

協議会（静岡県聴覚障害児を考える医療と福祉と教育の会）

聴覚障害児支援対策委員会（教育機関との連携強化）

静岡県教育委員会義務教育課

県立聴覚特別支援学校

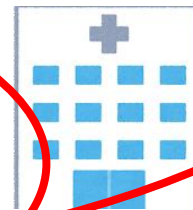
月例運営委員会（担当者会議）

静岡県こども家庭課

県乳幼児聴覚支援センター

県教委特別支援教育課

静岡県障害福祉課



日本耳鼻咽喉科学会静岡県地方部会

県手話通訳士事務局

精密聴力検査機関

県産婦人科医会事務局

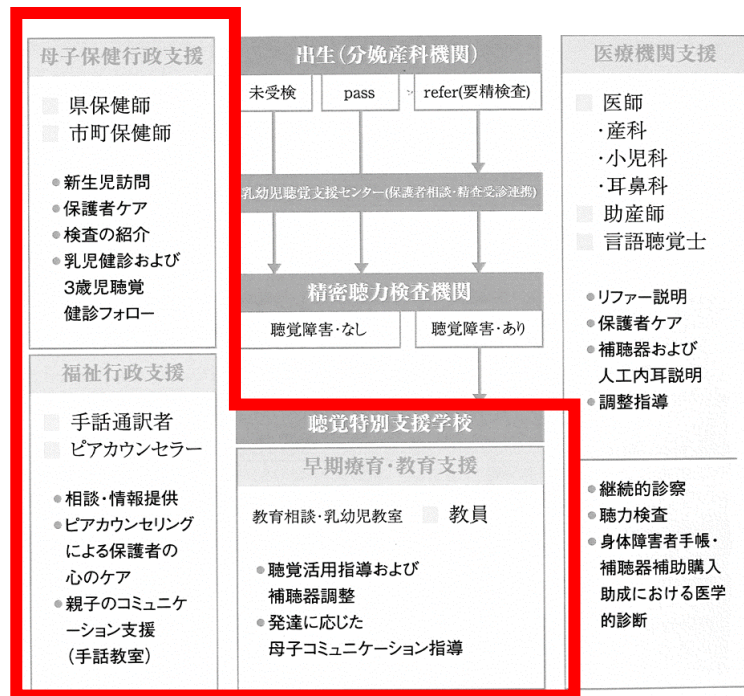
新生児科医

静岡市保健センター

浜松市保健センター

県身体障害者更正相談所

7) 市町福祉関係者との連携



7) 市町福祉関係者等との連携

- ① 難聴児に携わる幼稚園・保育園関係者等への講習会
「難聴児支援講習会」 6月 3名参加
- ② 教員・保健師や市町担当者対象の講習会
「難聴児支援講習会」 7月 44名参加 (Zoom)
- ③ 市町の保健センターへの説明
「保健センター訪問」 4か所 (Zoom)

7) 市町福祉関係者等との連携

- ④ 乳幼児クラス児の保育園訪問（半数はコロナのため中止）
- ⑤ 乳幼児クラス児の家庭訪問と
近隣の活動できる施設等チェック

- ・ インクルーシブな社会の実現に向けて、子どもたちを支える地域の支援の一層の充実を図る
- ・ 地区のセンターや保健センター、子ども図書館等、地域の中で難聴乳幼児親子が交流できる施設の開拓する

IV 課題と今後の取組に向けて

(1) 医療との連携体制の充実

- ・ 県立総合病院の言語聴覚士との共同療育の拡充
- ・ 在校生全般の情報交換会（Zoom等を利用して）
- ・ 地域のかかりつけ耳鼻科との連携

(2) 静岡県乳幼児聴覚支援センターとの連携

- ・ 難聴確定児の情報交換
- ・ 難聴乳幼児に関する研修会の共同開催

IV 課題と今後の取組に向けて

(3) 市町福祉関係との連携の充実

- ・ 長期休業中の教育相談会の実施
- ・ 個別のケースについて連携会議の設定
- ・ 地域の地区センターや子育て支援センターの活用

☆地域に埋もれている難聴乳幼児の発見、支援

(4) 校内乳幼児教育相談システムの再構築

- ・ 持続可能な担当者の配置、育成、研修
- ・ 家庭での育ちを基軸とした母子支援計画の作成 等

令和4年度からの取組

(1) 「難聴児の早期支援充実のための連携体制構築事業の
継続・拡充」

⇒ 中部地区(R3)から東・中・西部3地区に
乳幼児教育相談マネージャーの配置

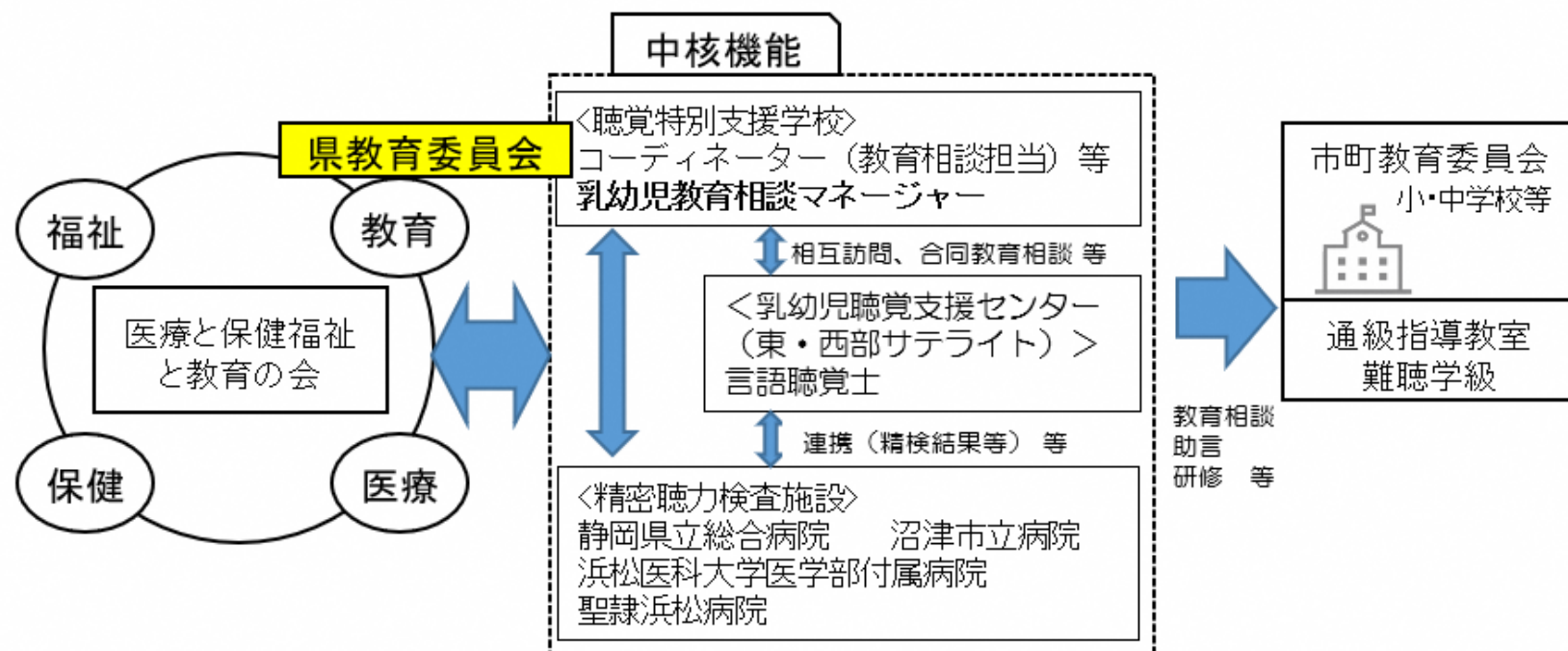
(2) 言語聴覚士との連携の強化

⇒ 乳幼児聴覚支援センターがサテライトを西部・東部にも
配置 (R3夏～)

(3) 乳幼児支援プログラム検討

⇒ オーストラリアシェファードセンター研修
健康福祉部・乳幼児聴覚支援センターと連携

静岡県 中核機能モデル



静岡県の主な支援機関(R4)

聴覚特別支援学校
精密聴力検査施設

<中部地区>

静岡聴覚特別支援学校
静岡県立総合病院病院

静岡県乳幼児聴覚支援センター

西部地区サテライト

<西部地区>

浜松聴覚特別支援学校
聖隷浜松病院
浜松医科大学医学部付属病院

<東部地区>

沼津聴覚特別支援学校
沼津市立病院

東部地区サテライト

